

データで見るヘルメットの重要性

Importance

10代・シニア層の自転車事故が特に多く、深刻な被害につながる傾向が見られます。地域の皆さまを守るためにも啓発の取り組みが必要です。

全年代

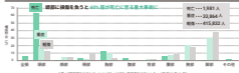
自転車事故での被害で最も多く、最も死亡に至りやすい損傷箇所は頭部

自転車事故の損傷部位の中で「頭部」が圧倒的多数を占めています。これは制動の際の急減速や転倒での強打、自転車等との衝突で事故に巻き込まれるり車体や路面で強打することが多いことが原因といわれています。これらによって頭蓋骨骨折や脳挫傷、脳しんどうを起すケースが多く、死亡に至っています。「手帳な乗り物」という誤解を生みかねない自転車ですが、万が一の事故で頭部に損傷を受けると死亡に至る事故に繋がります。



出典：交通安全総合センター（n=1,000） / (注) 交通安全総合センター（平成26年～27年）

自転車事故の損傷部位別／被害程度による損傷部位 (n=1,000名以上の自転車乗用者)



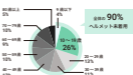
出典：交通安全総合センター（n=1,000） / (注) 交通安全総合センター（平成26年～27年）

10代

自転車事故の死者 全体の約3割が10代

自転車事故における死者数は全体の約3割が10代。その中でも高校生が大半を占めています。これは通学時に自転車を利用する割合が10代、特に高校生に多いことが原因と考えられます。また、死者の約8割はヘルメット未着用で、頭部と顔面への被害が続いています。生徒の皆さまの細かい指導を守るためのにも、万が一の自転車事故に備える安全対策が必要です。

年齢別自転車乗用者死者数 (n=10,000)



出典：警察庁交通課「令和2年における交通事故の発生状況と発生原因について」

自転車乗用者 中学生が3～5割！

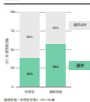
人口10万人当たり年齢別乗用者数 (n=100,000)



出典：(注) 交通安全総合センター（n=100,000）

自転車乗用者 通学中が4～6割

自転車乗用者死者数の通学目的別割合 (n=10,000)

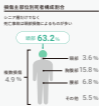
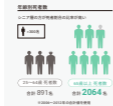


出典：(注) 交通安全総合センター（交通安全総合センター）

シニア

シニア層の自転車事故死亡の64.5%が頭部損傷が原因

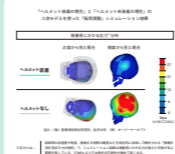
2008～2013年に20歳以上の自転車乗用者死者2,064人の損傷部位別割合 (n=2,064)



つまり、シニア層こそ自転車にはヘルメットを着用することが命を守ることに直結するということです。

いずれの年代でも 頭部を守るヘルメットの着用が最も大切であると言えます

ヘルメットの着用・非着用時の衝撃比較



制動実験の結果、ヘルメットの重要性が浮き彫りとなります。「ヘルメット装着」の場合には、比較的軽微な力（頭蓋骨にかかる力）が、後頭部を中心とした頭蓋骨に分散して作用することとなります。一方、「ヘルメット未装着」の場合、頭蓋骨を鋭くこす十分な力がいかに作用していることがわかります。